

平成 30 年度第 1 回北海道立函館美術館協議会会議録

- 1 日 時 平成 30 年 10 月 31 日 (水) 10:00~10:40
- 2 会 場 北海道立函館美術館 講堂
- 3 出席委員 川島委員、木村委員、小宮委員、酒井委員、武井委員、仲井委員、中村委員
二階堂委員、板東委員、堀田委員 (五十音順)
(欠席委員：進藤委員、丹波[旧姓:小林]委員)
- 4 傍 聴 者 報道関係者 2 名 (函館新聞社、北海道通信)
- 5 議 事

(1) 会長・副会長選出

北海道立美術館協議会条例施行規則第 1 条第 2 項に基づき、委員の互選により、会長及び副会長を選出 (会長：仲井委員、副会長：木村委員)。

(2) 報告事項

ア 平成 29 年度事業実施状況について

事務局：資料 1 及び資料 1 (補足) に基づき説明。

委 員：質疑等なし

イ 平成 29 年度道立美術館評価に係る評価結果について

事務局：資料 2 及び資料 2 (補足) に基づき説明。

委 員：D や E の評価が続くと、何かペナルティのようなものが発生するのか。

事務局：特にペナルティは発生しない。美術館の自己評価である。平成 29 年度の評価が最初であるが、評価結果を協議会に報告し、委員の皆様からご意見をいただき、改善に結びつけていく、いわゆる P D C A サイクルに基づく制度である。

委 員：他の美術館の評価と比較したものはあるのか。

事務局：まず、評価の基準は、全ての美術館で共通している。道教委のホームページで他の美術館の評価結果も公表されており、比較することはできる。厳しめに D の評価をつけているのは当館のみである。

委 員：3 つ確認させていただきたい。1 つ目は、その 2 の「館外展示の充実度」については、指標値と実績値が「設定なし」となっているのに、評価は c となっている。恐らく他の美術館との横並びの関係で設定されていると思うが、設定がないのであれば評価しなくてもよいのでは。2 つ目は、その 4 については、資料 3 の予算のところとも関係があるが、調査研究費については明朗には見えてこないで、評価の基準がよくわからない。例えば、論文や外部資金の獲得などといった基準で評価したほうがわかりやすいのではないか。3 つ目は、その 5 について、当館の「運営の重点」では、地域文化の振興として文化団体と連携した取組も記載されているが、ここではボランティアや文化施設と連携した取組の状況しか記載がない。文化団体との連携はかなり行われているかと思うが、それらの記述がない。

事務局：1 つ目について、評価項目の「館外展示の充実」は、評価指標が「移動美術館入場者満足度」と「その他の館外展示の状況」があるが、移動美術館については

実は札幌にある近代美術館の主催事業であることから、「設定なし」となっており、地方美術館は「その他の館外展示の状況」で評価することになっている。

2つ目について、調査研究費の外部資金の獲得という話があったが、美術財団から研究助成金をもらい、道立美術館の所蔵作品に関する研究を海外で行うという例はある。3つ目について、来年度においては、文化団体との連携についても記述するよう工夫してまいりたい。

委員：その4については、外部資金を得て調査研究の成果もあがっているということであれば、評価はCではなくてBでもよいのでは。調査研究はなかなか見えないかもしれないが、そういったことも記述して、評価したほうがよい。その5については、恐らくこの様式がエクセルで作成されるため、スペースが狭くて書きづらいかもしれないので、別紙に記載するなどの方法もある。また、美術館でこれだけのことを行っているのだから、思い切ってAの評価をつけてもよいのではないかと。

委員：昨年度末に行った評価に関する委員の意見等については、ここに反映されているのか。

事務局：反映させていただいている。

(3) 協議事項

ア 平成30年度運営計画について

事務局：パワーポイント及び資料3に基づき説明。

委員：たくさんの教育普及事業が行われているが、企画はどのように行っているのか。また、新たに美術館に来ていただく人を増やすためにどのような取組を行っているのか。

事務局：職員が日ごろ関心を持っていることのほか、美術館の外で行われているイベントなども参考にしながら、検討を行っている。さらに、学芸課だけでなく、総務課や非常勤職員、さらにはボランティアの方にも話しかけ、意見を伺って参考にさせていただくこともある。ソースはいろんなところにある。また、新たな来館者の掘り起こしについては、ダリ版画展でのメイクやヨガの事業を例にあげると、現場で感じたのは、それまで美術館に来たことはなかったが、もともとメイクやヨガに関心があったので事業に参加されたという方がいた。また、それとは逆に、展覧会を観に来て、事業のことを知って、申し込まれた方という方もいた。

委員：これだけの事業を学芸の方3人で行っているのは本当に大変である。本来は学芸の方がしなくてもよいと言ったら変だが、普及部門の方がすべきところの企画立案までなさっている。大変失礼な話になるが、文化振興に非常に熱心な北海道新聞さんなどが、外部資金をもって美術館で行っているような事業を行うことも考えられる。私が気になるのは資金である。特に「道南四都物語展」は、全国的に見てもとても画期的な展覧会であった。通常、美術館は美術しか扱わないが、民芸も扱っていた。事務方は大変だったと思うが、館長さんが他から予算を取ってきている可能性も考えられる。こういったところも自己評価のと

ころでアピールしていく必要もある。また、これだけ多くの事業を行っている
ので、もっと学校教育のほうで児童生徒に利用してもらえるよう、例えば、一
定の予算付けをしてほとんど義務のように美術館の展覧会を観るようにすると
いった工夫はできないだろうか。

委 員：私は学校関係者であるが、この間も美術館にお願いして、子どもたちが宿泊研
修で美術館に来た際に特別展を無料で観覧させていただいたが、我々もお手伝
いできることがあれば一緒に考えてまいりたい。

委 員：学芸員の方が企画されている事業は、とてもアットホームで良いと思う。また、
今年行われた「スタイル展」はとても良かった。恐らく学芸員の企画ではなく、
外からの持ち込みだと思うが、内容も良かった。ホールで行われていたが、こ
れまでホールで展示するという事はなかったのではないか。展示の方法とし
て、これからの見え方というか、可能性を感じた。

委 員：美術館で行っていることは本当に手作りによくやっていると感じている。ただ、
もう少しPRがあってもよいのではないか。いろんなPR方法があるが、われ
われ企業のほうでも何か考えられればと思う。

委 員：私が委員に就任した当時、関連事業は少なかった。学芸員の方が努力され、企
業などとタイアップして様々な事業を行うようになり、それが結果として来館
者の増につながっている。例えば、函館の企業やイベントを行っている団体な
ども、美術館からこういう事業とタイアップしたいのですかと声をかけられる
とすごくうれしいと思う。ぜひ広いジャンルでぶつけていただきたい。先ほど
ホールの展示について話があったが、少し前に目の見えない方にも鑑賞いた
だける機会として、ホールの彫刻に直接手で触れてみる「アートにタッチ！」を
考案していただいた。

委 員：常設展は時期によって作品が変わるのがすごく楽しみである。今回の「たべも
の×おいしい関係」も本当に楽しく観させていただいた。恐らく美術館ではも
っと展示したいものもあるのではないか。建て直すことは無理だと思うが、展
示室がすごく狭い。五稜郭周辺を観光された後に来られているお客様もいるの
で、美術館は本当によい場所にあると感じている。何校かの中学生が職業体験
として美術館に来ているが、子どもたちにはとてもよい経験となっている。

委 員：私は美術館のFacebookをよく見ているが、「こういうことを行います」という
お知らせはあるが、できれば「こういうものを作りました」、「お客様からこ
ういったご意見がありました」など、事後の報告も発信していただければありが
たい。また、9月に地震が起きた際の美術館での対応状況をお聞きしたい。

事務局：Facebookの事後報告については、今後実施する方向で検討してまいりたい。9
月の地震の際は美術館はボイラー工事のため全館休館中であり、お客様はいら
っしゃらなかったのも、対外的な対応は特になかった。ただ館内の対応として、
停電によりもともと機動していた残り1台のボイラーも停止したため、委託業
者とのやりとりはあった。

委員：もちろん観覧者数が増えてほしいので、PRを行っていくことも大切だが、一方で美術館のファンも結構いると思うので、ファンを大事にすることも必要である。例えば、日本ハムファイターズは、かなり前からファンとの距離を縮めるため、ファンサービスを重点的に行き、その結果、一般のサポーターがたくさん増えていった。昨年協議会でもお話したとおり、もちろん公的な協議会も大切だが、サポーターの方々を集めたグループを作り、自由にトークできるような場を作っただけだと、市民との距離が非常に近くなっていくのではないかと思う。私事だが、仲間と数人でお酒を飲みながら美術館の展覧会についての感想を述べ合う会を今日初めて開催する。会の前には必ず展覧会を観ることになる。小さな取組だが、少しでも美術館に近づこうとしている。まずは美術館に近づけるような機会をたくさん作っていただきたい。

委員：12月に教育長と校長会で視察研修の一環で函館を訪問する予定だが、その中に美術館も入れさせていただいている。

イ 「アートギャラリー北海道」の新たな取組について

事務局：資料4に基づき説明。

委員：連携施設との連携について、展覧会等の内容に関するものはあるのか。

事務局：今年4月に開催した「道南四都物語展」では、連携施設から文化財や美術品をお借りして、展示させていただいた。

(4) その他

事務局：口頭で平成31年度の展覧会の見込みについて、また、資料に基づき平成30年7～8月に実施した外国人観覧者数調査の結果について報告を行った。